



その他

---

## 6-1 学会等の参加

## (1) 第59回日本人間ドック学会学術大会

年 月 日	演 題 題 目
平成30年 8月30日 31日	体力測定と運動教室への参加が体力の維持・増進に及ぼす効果

発表者：井村聡仁、大橋功男、林真弓、前津牧子、中村真朱美、伊藤和幸、  
平山幹生、安田宜成、柴田典子

**【背景】**

春日井市保健センターでは、人間ドック等受診者を対象に体力測定を実施し、運動教室への参加を促し、体力並びに健康の維持・増進、介護予防へとつなげる健康づくりの支援を行っている。当センターの運動教室は、年間延べ24,000人が参加しており、体力測定利用者に対する健康づくりの機会提供と実践の場として実施する健康づくり事業のメインプログラムである。

**【目的】**

運動教室参加者における体力測定の結果を後方視的に解析し、体力の維持・増進効果を検討した。

**【方法】**

対象は、当センターにおいて平成26年6月1日から平成29年3月31日に複数回体力測定を受けた男性291名、女性967名。初回者と以前からの継続者の体力測定結果（長座体前屈、全身反応時間、閉眼片足立ち、握力、上体おこし）を比較検討した。

**【結果】**

初回者の男性192名（69.4±6.6歳）、女性533名（62.7±9.2歳）の体力測定結果は、年齢別全国平均値を下回っていた。初回者の約1年後の変化は、男性が長座体前屈+2.2cm、閉眼片足立ち+2.25秒、上体おこし+1.35回、女性が長座体前屈+1.21cm、閉眼片足立ち+3.1秒、上体おこし+1.31回と有意に改善していた。継続者男性99名（72.7±7.0歳）、女性434名（67.2±8.6歳）の体力測定結果を初回者と比較すると、男性は長座体前屈+2.42cm、閉眼片足立ち+4.45秒、上体おこし+1.28回、女性は長座体前屈+1.33cm、閉眼片足立ち+6.03秒、上体おこし+3.25回と有意に継続者の測定結果が良かった。

**【結語・考察】**

当センターの初回者は、体力測定結果が年齢平均より悪いが、運動教室の参加により改善する。さらに継続者は初回者より高齢であるにも関わらず体力測定結果が良かった。当センターの運動教室は高齢者の体力の維持・増進に有効であり、要介護者の増加抑制に資すると期待される。

## (2) 春日井市がんオープンカンファレンス

年 月 日	演 題 題 目
平成30年 6 月 7 日	総合保健医療センターにおけるがん検診の現状

座長 : 伊藤和幸

発表者 : 森則久、平内ともみ、長江みき、沼田奈々

### 【主な内容】

春日井市総合保健医療センターでは、「健診事業」、「健康づくり事業」、「休日・平日夜間診療事業」の3つを展開している。「健診事業」では、人間ドックを始め、各種健診を行っている。また、「健康づくり事業」にも力を入れており、健診と健康づくりのサイクルを事業の柱とし、地域住民の健康維持、増進を支援している。すべての事業を合わせると年間延べ73,000人あまりの利用者がある。

＜肺がん検査＞胸部2方向撮影（正面・側面）、オプション検査：胸部断層撮影、喀痰検査。平成28年度受診者は9,462人、がんは5人。

＜胃がん検査＞胃部X線、基準撮影法。平成28年度受診者は8,042人、がんは9人。

＜前立腺がん検査＞前立腺特異抗原（PSA）をCLIA法で測定。平成28年度受診者は3,715人、要精密検査は333人（9.0%）。精検受診者201人中がんは25人（12.4%）。

＜大腸がん検査＞便潜血検査（免疫学的便ヘモグロビン検査）。平成28年度受診者は9,448人、要精密検査は728人（7.7%）。精検受診者469人がんは21人（4.8%）。

＜腹部超音波検査＞平成28年度受診者は9,563人、要精密検査は694人（7.3%）。平成24～29年度のがん件数は34人、膀胱がんが8人で最も多く発見されている。これは当センターでの尿をためた状態での下腹部超音波検査を実施しているためである。このことが有効であったことが分かる。

＜子宮がん検査＞平成29年度からサーベックスブラシを使用。平成29年度受診者は1,946人、要精密検査は19人（0.98%）精検受診者16人中がんは3人（0.1%）。

＜乳がん検査＞平成28年度受診者は2,738人、要精密検査は175人（6.4%）。精検受診者150人中がんは11人（0.73%）。女性検診フロアで、DVDや触診モデルを設置し、自己検診の啓発も行っている。女性のセルフチェック教室を年6回行い、61名が受講している。

がんの一次予防のための健康づくり事業の一つ、メタボリックシンドローム重症化の予防活動として、メタボ脱却教室を開催している。健康習慣を実践する事で、生活習慣病の予防だけでなく、がんになるリスクが低下する。この教室では、保健師、栄養士、健康運動指導士が受講者と関わりを持ちながら、毎週1時間、全12回行い、生活習慣の改善に取り組んだ。受講者には体重や運動の実施、食事・間食の記録、血圧などを記録してもらい、毎週スタッフが記録表を確認、アドバイスを行うことで、モチベーションの維持に努めた。教室修了後、希望者には身体計測、血圧測定、血液検査を行い、結果に基づいて個別指導を行う効果測定会を実施している。

今後も健診施設としての特色をいかした、がんの一次予防の為に健康づくりを行っていく。

## 6-2 会議活動

## 【健診担当者会議】

ア 目的・内容：健診事業・健康づくり事業にかかる各ミーティング（臨床検査技師ミーティング、診療放射線技師ミーティング、看護師ミーティング、健康づくり担当者ミーティング）を統括し、健診事業の円滑な実施を目的とする。

イ 開催：毎月第2水曜日

ウ 構成：8名

## 【医療安全担当者会議】

ア 目的・内容：医療の質の向上と安全管理及び院内感染対策を総合的に企画・実施する。医療安全管理指針の策定、医療安全に関する報告で得られた事例の発生原因、再発防止策の検討、実施後の検証及び職員への周知を行う。

イ 開催：毎月第2水曜日

ウ 構成：8名

## 【サービス向上担当者会議】

ア 目的・内容：施設利用者に対するサービスの改善と質の向上の推進を図る。アンケートや御意見箱等による顧客満足度調査の実施・評価、接客研修の企画・運営を行う。施設内の季節を感じる飾り付け、禁煙キャンペーンや、ピンクリボンキャンペーンなどを実施する。

イ 開催：隔週金曜日

ウ 構成：9名

## 【事務会議】

ア 目的・内容：事務管理・施設運営にかかる事項を協議し、効率的な法人運営及び事務執行を目的とする。

イ 開催：毎月第3水曜日

ウ 構成：5名

## 【年報編集委員会】

ア 目的・内容：事業団の年報の編集・作成を行う

イ 開催：随時

ウ 構成：8名

## 【機関誌編集委員会】

ア 目的・内容：年2回発行する事業団の機関紙の編集・作成を行う。

平成30年度は vol.6 腰痛予防・改善ストレッチ、vol.7 もっと知ろう！腎臓とCKDを作成。

イ 開催：随時

ウ 構成：6名



---

年報作成委員会

橋口 勝  
掛川 悌示  
成田 晃久  
井上 未樹  
金井 沙耶香  
中村 なつ恵  
波多野 真由

平成30年度版 公益財団法人春日井市健康管理事業団年報

令和元年12月発行

編集・発行 公益財団法人春日井市健康管理事業団

〒486-0804

春日井市鷹来町1丁目1番地1

TEL 0568-84-3060

FAX 0568-84-3682